

交流活動を生かして 「元気な漁業・漁村づくり」

九谷 貴義 (くたに たかよし) (左)
寿都町役場産業振興課水産係長

櫻井 隆丞 (さくらい りゅうすけ) (右)
寿都町役場産業振興課水産係主任



寿都町のブランド「ことぶき寿かき」旬は4月下旬から7月上旬

寿都町は、北海道南西部に位置し、かつてニシン漁で栄華を極め、現在も寿都湾の豊かな資源の恩恵を受ける港町です。その寿都町で漁業体験学習を実施し、都市と漁村の交流を深めている「寿都地域マリンビジョン協議会」の事務局、九谷貴義さんと櫻井隆丞さんにお話しを伺いました。

《自然と水産業を核とした魅力ある漁村づくり》

寿都地域は、水産業を核とした地域で、山・川・里・海がコンパクトにまとまった自然豊かな環境です。

しかし、若者の流出と過疎高齢化の進行、水産資源の減少、漁獲量の低迷、就業者の減少など多くの課題を抱えていました。そこで、自然と共生した生活・文化といった漁村地域固有の資源を活かし、「水産業他既存産業との連携」、「新たな交流関連産業創出」など経済波及とともに地域の「元気」を創出することを目的に寿都地域マリンビジョン協議会を設立しました。

協議会では、自然と水産業を核としたさまざまな地域おこしプロジェクトを展開し、これらの取り組みの一環として寿都町漁業協同組合が中心となり、「漁業体験学習」を実施し、都市と漁村の交流を深めています。



乗船体験の参加者

*** 報奨旅行**
企業や団体が優秀な社員の努力に報い、やる気を高めるために催す旅行。

《豊富なプログラムで参加者も年々増加》

漁業体験のプログラムは、地引網体験、乗船体験、水産加工体験、海の肥料づくり、磯遊び、施設見学など豊富な内容で漁業の魅力を伝えています。参加者は、札幌市や関東、関西方面の中学校、高等学校の修学旅行生などが中心となっていますが、一般の方も受け入れています。この漁業体験は、とても人気があり年々参加者が増えています。

2015年、台湾の保険会社が報奨旅行*で来道した際には、ツアーのメニューとなっていた漁業体験で約2,200名が寿都町を訪れ、地引網などを体験し好評を得ました。漁業体験は海外からの旅行者にもニーズがあることがわかりました。これまでの活動が、2017年の第8回「わが村は美しくー北海道」コンクールで審査委員特別賞を受賞しました。

また、寿都町では、毎年、春と秋に寿都の特産品である「寿かき」「ほっけ」「小女子」や近隣町村で収穫された農水産物などを活かしたイベントが開催されています。イベントは、協議会の協力もあり、多くの来場者が訪れて町の賑わいにも貢献しています。

その後も順調に「漁業体験学習」を続けていましたが、新型コロナウイルスの影響で、2020年に予定していた受け入れは、全てキャンセルとなり、現在も実施に至っていない状況です。

こうした環境の中でも協議会は、コロナ収束後の体験学習の再開に向けて、受け入れ態勢を整えるなど頑張っています。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。